

文化財ニュース いわき

第 55 号

平成 9 年 5 月 6 日

財団法人いわき市教育文化事業団

福島県いわき市中央台県立いわき公園内

TEL 0246(29)0391

近代・現代遺跡の発掘

ここでは、近・現代という時期区分を今から約 130年前の明治維新以降の時代とします。以前は、近・現代の建物跡・ゴミ穴などは、縄文・弥生時代より新しいということで、発掘されないまま壊されていました。しかし、最近では、その明治時代以後の遺跡発掘が日本各地で行われるようになりました。その代表的な例は、東京都の汐留遺跡しおどめいせきです。旧新橋（汐留）駅の構内であった汐留遺跡からは、当時の駅舎・プラットホーム跡、汽車土瓶どびん、三等切符などが見つかりました。



大正時代の屋敷跡（大平B遺跡）



炭を焼いた窯跡（道添B遺跡）



トイレの跡（荒田目条里制遺構）



お墓跡（砂畑遺跡）

近代遺跡の発掘調査

いわき市でも、近代以後の遺跡が発掘されることが多くなりました。

近代の遺跡には、建物、ゴミ穴、トイレの跡やお墓などがあります。ゴミ穴からは、当時の人が使った道具・貝やタネなどの食べかすなどが発見されます。道具については、今でも博物館などでほんの少し見ることはできますが、どこに、どんな建物が建っていたとか、どんなものを食べていたのかといったことは、おじいさんやおばあさんの話を聞いて想像するしかありません。

800年以上むかしの古代や、2,000年以上もむかしの原始より、近代がはるかに新しい時代だとしても130年前のことをよく知っている人は、もうそれほど多くありません。私達のおじいさんやおばあさんが少年・少女時代に見た風景、使った道具など当時の生活の一端を実際に目にするができるのも、発掘調査のよいところです。

現代遺跡の発掘調査

現代の遺跡でも貴重な資料が見つかることがあります。四倉町の^{しらいわほりの}白岩堀ノ内遺跡^{うちいせき}では、明治時代から大正・昭和時代にかけての鉄道の線路のあとや、せとものを焼いた^{かま}窯の跡が見つかりました。

鉄道は人を運んでいたのではなく、四倉町の中島地区でとれた粘土をセメント工場まで運ぶために使われていました。線路のあとが見つかった近くには、粘土をとるために掘った穴がたくさん残っていました。レールや枕木ははずされてなくなっていました^{まくらぎ}が、線路の下に置かれていた枕木のあとが規則正しく並んで残っていました。

この線路の周りでは、質の良い粘土がたくさんとれることから、この粘土を利用して瓦やせともものも作られていました。遺跡の調査範囲の中からは、瓦やせとものを焼いた窯は見つかりませんでした^{えがら}が、せとものを焼くときに窯の中で使う窯道具や焼け損じたせとものがたくさん見つかりました。また、窯があったと考えられる場所の近くからは、せとものを焼くために働いていた人たちが使ったと思われる茶碗や皿、コップやガラス瓶などもたくさん見つかりました。これらの茶碗や皿からは、その時代の人々がどのような^{えがら}絵柄の食器を使って食事をしていたのかを想像することができます。



粘土を運ぶために使われた線路の跡



窯道具や焼け損じたせともの様子

いわきニュータウンから ヒゲクジラ化石

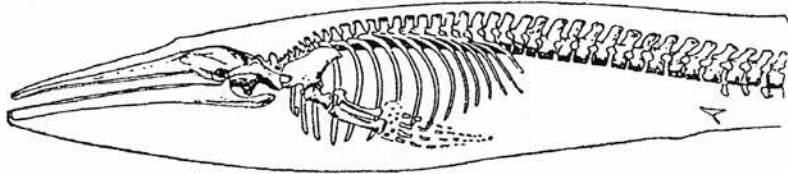
一昨年秋、いわきニュータウン下高久地内の道路法面から、化石が見つかったとの通報が事業団にあり、市教委と相談の上調査を行いました。出土地点は、地質学上「中山層南白土部層」にあたります。この地層下部層の非海成層からは、以前に複数のステゴロフォドン象の化石が発見されています。

この層は、前期中新世1,700万年前の海成堆積物層であることもわかっています。日本ではこの年代のクジラ化石で種類名まで確定したのは10例足らずですので、この点からも珍しい発見例となりました。

発見時の観察から、ヒゲクジラの下顎骨（長さ1.4m）の一部である可能性があり、頭部のみならず胸部も残っていると判断され、大きなブロックとして掘り出し、クリーニングしました。

クジラ化石は頭部の特徴が、分類する上で最も重要で、今回の化石は保存状態から見て、日本から産出したクジラ化石の中では、最良の化石資料になると考えられます。また、保存状態の良さからして部分復元でなく、フタバズキリュウのような立体的復元すら可能となりそうです。

市内では昭和53年以降、県立四倉高校敷地内から、400万年前のクジラ化石が発見され、現在いわき市石炭化石館に展示されています。



ヒゲクジラ骨格図（部分）